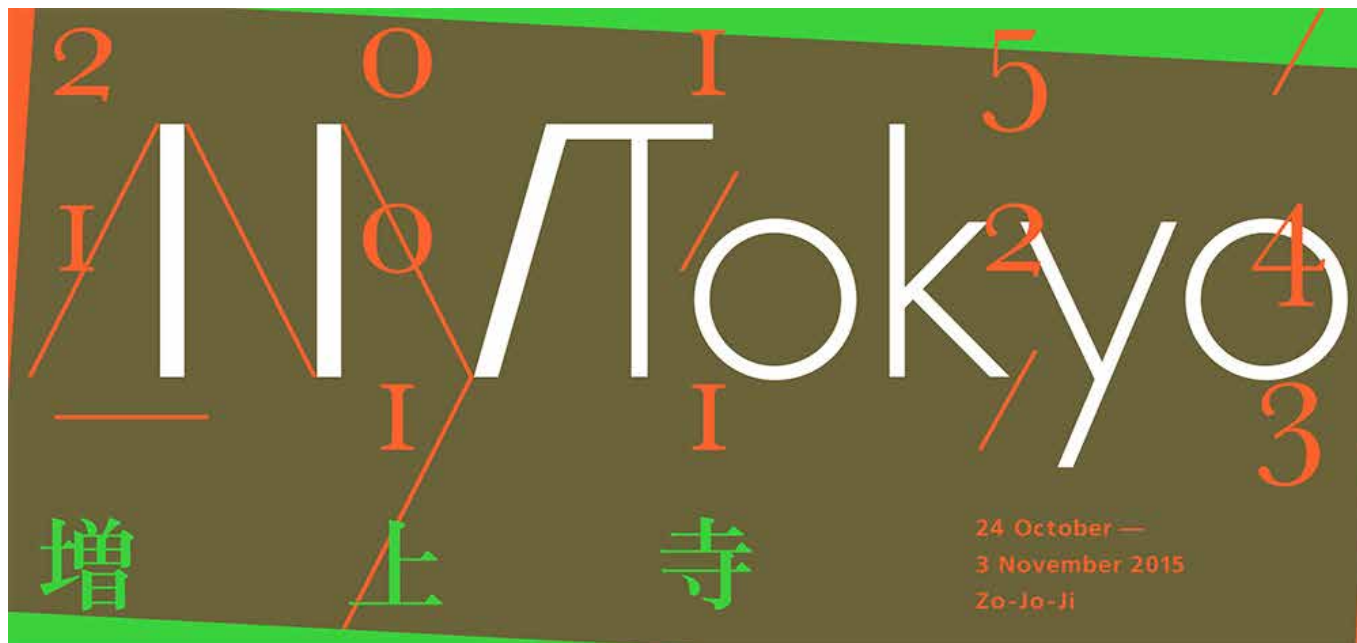


「日本の新たなデザインの展覧会」AnyTokyo は、今年で3年目を迎えます！

AnyTokyo（エニートーキョー）とは、これからの暮らしのために生み出された美しいプロダクト、驚くべきアイデア、感動を与えてくれるアートやミュージックなど、様々な分野の美しきデザインやアイデア達が集結する「日本の新たなデザインの展覧会」です。3年目となる本年は、昨年に引き続き、日本の重要文化財である増上寺を舞台に開催します。



2015年のテーマは「DIVERSITY & BEAUTY / 美しき多様性」

我々の生活シーンに存在するデザインは多様性に満ちています。世の中の為に生み出されたそのひとつひとつは、厳選されたアイデアを通じて日本産業を盛り上げ、文化、藝術に寄与し、生活の豊かさや人々の幸せへとつなげてゆきます。

本展では、日常生活への独自の着眼点で実用的かつ審美的に実現化したプロダクトや、新技術を活用し様々な試行から生まれたマテリアル、有機的に身体感覚に訴える新たな機構、往年の名作を現代の目線で新たに表現した独創的なプロジェクトなど、ジャンルを問わず一同に展示。「デザイン」という言葉が、様々な角度から取りあげられている今の日本において、既成概念にとらわれず、未来へむけて国際的に活躍するクリエイターたちの活動の一端を紹介します。

時代を読み解く日中韓のデザイナーが登壇する、デザインフォーラムを開催

本年の新たな試みとして、特許庁が主催するデザインフォーラムをAnyTokyoの会期中に同会場内にて開催します。日中韓の特許庁関係者をはじめ、デザイン、開発実務に携わる立場の登壇者、来場者の皆様と共にデザインがもたらす可能性について広く意見交換を行い、ビジネス、クリエイティブ、ライフスタイルが融合した未来への気付きにつなげる試みです。

開催概要

AnyTokyo 2015（エニートーキョー 2015）
「DIVERSITY & BEAUTY / 美しき多様性」
 会期：2015年10月24日（土）～11月3日（火・祝）
 11:00～20:00
 会場：大本山 増上寺 光摂殿（港区芝公園 4-7-35）
 入場無料 <http://anytokyo.com>

【会期中イベント】

- 特許庁主催 日中韓 デザインフォーラム
 日時：10月30日（金）14:00～18:00 [受付開始 13:30]
 ※詳細は次ページご参照下さい。
- Party and Live Performance
 日時：10月30日（金）18:00～21:00
 会場音楽を担当した、Kan Sano によるライブパフォーマンス

主催 | エニートーキョー実行委員会
 エグゼクティブプロデューサー | 田中雅人
 パートナー / エグゼクティブクリエイティブディレクター | 石川俊祐、高橋真人
 パートナー / アートディレクション / デザイン | 丸山新 (&Form)
 マネージメント | 増崎真帆
 ディレクション | 高倉啓一郎、西田麻海江
 サウンドデザイン | Kan Sano
 サウンドコーディネーター | 木村真理
 会場マネージメント | 石川滋朗 (治具シンプルスタイル)
 照明 | 高橋仁
 プレス | デイリープレス
 ウェブサイト | 川田修、鈴木正樹、田中雄一郎、清水和豊、坂元圭一、岸本麻子
 (株式会社フルサイズイメージ)
 翻訳 | Kelly Jo Kikuchi
 リーフレット | 藤原印刷株式会社
 後援 | 港区、特許庁
 特別協力 | 増上寺
 協賛 | 藤原印刷株式会社、株式会社フルサイズイメージ
 協力 | オランダ王国大使館、フリッツ・ハンセン日本支社、小西酒造株式会社、
 トレインスポット株式会社

FORUM フォーラム

特許庁主催 日中韓 デザインフォーラム

強いデザインとは何か？美しいデザインとは？攻めるデザイン、守るデザインとは？

時代を読み解く日中韓のデザイナー達が、世の中に多様な価値を生み出すデザインの事例や意匠権の活用について語る。

「日中韓デザインフォーラム」は、2010年より各国持ち回りで開催されています。AnyTokyoがこのフォーラムの意義に賛同し、日本では2回目の開催となる本フォーラムをAnyTokyo 2015の会期中に開催することとなりました。

今回は、国際的に活動する日中韓のデザイナーによる講演のほか、各国の特許庁関係者や企業関係者によるディスカッションを実施。実際に意匠設計、開発実務に携わる立場から、デザインがライフスタイルに美しい価値と唯一無二のインパクトを創造すること、またそれらの可能性を思考することの重要性を、事例紹介や権利の活用例とあわせて語ります。このフォーラムが、デザインと人の生活、ビジネスが融合し、より戦略的なデザインビジネスが生まれるきっかけとなることを期待しています。

テーマ：「強いデザイン、美しいデザイン」

日時：2015年10月30日(金)

14:00～18:00 [受付開始 13:30～]

会場：AnyTokyo 2015 会場内 (増上寺 光摂殿)

先着100名 無料

※プログラム詳細、講演者の情報は随時更新し、

AnyTokyoのオフィシャルサイト及びFacebookにて
ご案内いたします。

<http://anytokyo.com>

<https://www.facebook.com/anytokyo2013?ref=ts>

【プログラム】

- 14:00 開会・冒頭挨拶 (特許庁審判部 本多部門長)
- 14:05 日本デザイナー 石黒 猛氏 講演
- 14:45 日本国特許庁による意匠制度説明
- 15:00 中国デザイナー Tony Wong 氏 講演
- 15:40 中国特許庁による意匠制度説明
- 15:55 休憩
- 16:10 韓国デザイナー Junggi Sung 氏 講演
- 16:50 韓国特許庁による意匠制度説明
- 17:05 日中韓デザイナーによるディスカッション
モデレーター：水野 大二郎氏
- 17:45 Q & A ～18:00 閉会

講演者 プロフィール



石黒 猛氏 デザイナー

1994年RCA(英国王立美術大学)修士課程修了後1996年から米IDEO社入社サンフランシスコ事務所に勤務し広くプロダクトデザイン、戦略にたずさわる。1998年「Rice Salt&Pepper」、2007年に加湿器「Chimney」がニューヨーク近代美術館永久保存に決まる。2002年から石黒猛事務所を開設、プロダクト、アート、舞台美術など多岐に活動中。



Tony Wong 氏 IDEO China デザインディレクター

トニー・ウォン：専門領域はプロダクトデザイン及びその開発で、クライアントがビジネスの課題を明確にし、ビジョンや戦略をより魅力的なものにすることに寄与している。中国におけるデザイン分野に関して広範囲に及ぶ経験を持ち、ヘルスケア、家庭用電化製品、飲食料品など、多岐にわたる分野で仕事に取り組んでいる。



Junggi Sung 氏 Daylight クリエイティブディレクター

ジュンギ・ソング：IDEO, Luner Design, LG Electricでデザイナーとしての経歴をもち、ボルシェ・グランド・プライズをはじめとする多くの国際的デザインアワードにおいて受賞歴がある。シンプルで視覚的に詩的で美しいデザインを生み続けている。



水野 大二郎氏 慶応義塾大学環境情報学部准教授

Royal College of Art 博士後期課程修了、芸術博士(ファッションデザイン)。京都造形芸術大学 ウルトラファクトリー・クリティカルデザインラボ ディレクター、DESIGNEAST 実行委員、Inclusive Design Now 実行委員、FabLab Japan メンバー。

メディア関係者様の本フォーラムへのご参加、ご取材等の希望がありましたらプレス担当までご連絡下さい。

[プレスに関するお問い合わせ] press@anytokyo.com tel. 090-4062-6361 担当：山本

Party and Live Performance

Friday Night Party & Live Performance "Space Music for a Place"

日時：2015年10月30日(金) 18:00～21:00 Invitation Free

AnyTokyo 会期中の金曜夜、今年の会場音楽を手がける Kan Sano が会場でライブパフォーマンスを行います。ピアニスト/トラックメイカーとして国内外から注目を浴びる Kan Sano が、彼のライフワークでもあるピアノの即興演奏で、昭和40年代に誕生した増上寺のグランドピアノとコラボレーション。ピアノの音色に包まれながら AnyTokyo をお楽しみいただくスペシャルな夜、ぜひお誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。



Kan Sano

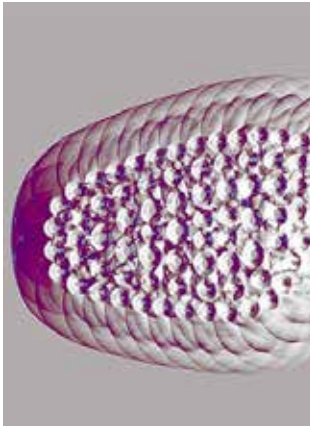
EXHIBITION 出展者・出展作品



Akira Wakita 脇田 玲
Artist / Engineer

Scalar Field of Shoes

<http://akirawakita.com>



靴をはいて「立つ」「歩く」「走る」という行為は、ソールを通して地面とインタラクションすることであり、私たちの身体がそこから多様な情報を取得し続けているのと同時に、その一步一步は肉眼では見ることのできない圧力場を床面に生成し、周囲に確実に影響を与え続けている。その意味で、ソールのパターンや構造は靴のデザインの本質であるが、ソールそのものが注目されることはあまりない。「Scalar Field of Shoes」は、靴のソールが作り出す「見えない影響力」を圧力場という側面から映像化し、シューズデザインへの新しい眼差しを提供する。ソールが作り出す圧力伝播のパターンは自然の造形美で、足元に見えない絶景が生成されていることに気がつく。独自開発した流体シミュレーションの並列処理により圧力の可視化を実現。これはデザインを解釈する言語としてハイテクノロジーを位置付ける提案でもある。

プロフィール

「フィジカルティ」をテーマとして流体シミュレーションによるリアルタイム映像や色彩を制御できるマテリアルの製作を続けている。特に近年は、流体力学や熱力学のモデルに基づく独自ソフトウェアを開発し、科学と美術を横断するビジュアライゼーションに注力している。慶應義塾大学環境情報学部教授。

BLUEVOX!

BLUEVOX!
Product Label

SHIZUKU
AXIS

<http://bluevox.tokyo>



[SHIZUKU] 日本を象徴する工芸技術のひとつ、漆工芸。その美しい風合いをさらなる高みへと導くひとつのアイデア。"漆だけの薄さ"で、美しくしなやかな強さを表現したい。漆器の多くが同心円や多角面体なのは、漆を塗る素地があるから。ろくろ挽きの木地なら形も限られ、その分厚さが必要になる。その素地をなくし、塗りだけで形を作ったならどうだろう？「SHIZUKU」は、三河仏壇の塗師たちの発案によるまったく新しい工法で、かつてなく薄く、水の滴（しずく）のようなフォルムを実現。塗りの常識を超えた薄さで、美しい3次元曲面を描く歪と存在感を放つ高台とのシャープで印象的なコントラスト。これまでになく自由な佇まいの新しい酒器が誕生した。[AXIS] 無垢の金属棒を回転軸に沿って削り出したパーツから構成される限りなく細く美しい椅子。そのフォルムは流麗でかつしなやかながらその強靱な軸線は、優く強く、永遠に朽ちる事無く佇み続ける。

プロフィール

東京と仙台、ロンドンに拠点を置くビジュアルデザインスタジオ WOW から新たに立ち上げたレーベル。WOW が手がけてきたビジュアルデザインには、3D データを駆使したモノが多い。フォルム、質感、ライティング... それらに対するアーティストティックなこだわりや技術を駆使して実際に存在するモノに落としこんでいくのが「BLUEVOX!」プロジェクトである。WOW が培ってきたさまざまなこだわりを、「機能性を持ったアート作品」のようなカタチで発信していく。



Dai Sugasawa
Designer

Bipod
design by
Dai Sugasawa
for industry+

<http://industryplus.com.sg/>



ミリタリー用具よりインスピレーションを受けた「Bipod Table」は、シンプルかつ機能性、実用性を求めるモダニストに捧げてデザインされたもの。そのフォルムは機能そのものであり、Table の機械的な美しさを強調するため、それぞれのパーツが露出されたままデザインされている。

プロフィール

1977 年生まれ。2005 年からデザイナーの Christophe Pillet とコラボレーションを行った後、2010 年に自身のデザイン・建築事務所をパリで設立。日本文化と現代的でテクノロジー的なデザインを絡み合わせた表現を通じて様々なプロジェクトを進展させている。デザインを手がけた「Nanzan Giro Giro ハワイ店」に続き、2014 年にはレストラン「Le Clos Y」がパリにオープン。この約 5 年間は、デザイナーの Philippe Starck とともに Kartell で作品を発表など多くのプロダクトを手がけている。



emmanuelle moureaux
Architect / Designer

1 坪の 100 色
100 colors in 3.3㎡

www.emmanuelle.jp



1 坪の小さな空間に凝縮された 100 色。今回エマニュエルが発表する 100 色シリーズの新作は、風になびく細く繊細な 100 色の下で寝転び、自分だけの色の空間を楽しめる作品である。

「100 colors」とは、2013 年から手掛けている 100 色で空間を構成するインスタレーションシリーズ。環境に合わせて色のかたちを変化させ、色の魅力を最大限に引き出している。一目で視界に入る 100 色を全身で受け、色そのものを感じてもらおう作品を展開している。

www.emmanuelle.jp/100colors/

プロフィール

東京在住フランス人建築家。emmanuelle moureaux architecture + design 主宰。東京の"色"と街並が成す複雑な"レイヤー"と、日本の伝統的な"仕切り"から着想を得て色で空間を仕切る「色切/shikiri」コンセプトを編み出す。色を平面的ではなく三次元空間を形作る道具として扱い、建築、空間デザイン、アートなど幅広く手掛ける。

東北芸術工科大学准教授。



The Republic of
Fritz Hansen
Manufacture

7 COOL ARCHITECTS
The Republic of
Fritz Hansen

<http://www.fritzhansen.com>



1958年にアルネ・ヤコブセンによってデザインされたフリッツ・ハンセンのセブンチェアは、ヤコブセンが手がけた他の作品とは異なり、特定のプロジェクトのためにデザインされたものではない。これが、様々な空間にセブンチェアが受け入れられる理由のひとつと言える。セブンチェア 60周年を記念して企画された「7 COOL ARCHITECTS」プロジェクトでは、世界で活躍する7組の建築事務所 (Bjarke Ingels Group, Carlos Ott & Carlos Ponce de León, Jean Nouvel Design, 五十嵐淳建築設計事務所, Neri&Hu, Snøhetta, Zaha Hadid Design) が賛同し、建築的でありながら、独創性のあるセブンチェアが誕生した。建築家によるデザインにフォーカスをあてたこの展示は欧州各国の巡回を経て、東京へ。

プロフィール

社名の由来となった創業者、フリッツ・ハンセン氏が1872年にデンマーク・コペンハーゲンで家具の部材会社として創業。アルネ・ヤコブセンやポール・ケアホルムといった巨匠と評されるデザイナーたちとの製品を世に送り出すとともに、現在も世界中の才能あるデザイナー、例えばハイメ・アジジョンやキャスパー・サルト、セシリエ・マンツらと最新のラインアップを充実させる努力を続けている。ニューヨークのMoMA、金沢の21世紀美術館、東京六本木の国立新美術館など各地の美術館や公共施設でもフリッツ・ハンセンの製品が使われている。



h220430
Satoshi Itasaka 板坂諭
Designer

THE BIRTH

<http://www.h220430.jp/>



今日、人種差別や無差別テロといった人道的課題は尽きることがない。人工的に生命を創り出すことすらも可能になり「生命の重さ」が変化しているようにみえる今こそ、「生命」というものを改めて考える必要があるのではないかと。THE BIRTHは、受精した瞬間に卵子から放たれると言われていた微弱な光からインスピレーションを受けたシャンデリア。生命の神秘を身近に感じることにより、一人でも多くの人が生命の尊さについて再認識するきっかけになることを願っている。

プロフィール

平成22年4月30日に設立された「h220430」は、照明や家具などのデザインを世界へ向けて発信している。デザインを単にモノの形状操作として捉えるのではなく、そのモノに込めたメッセージをもとに生まれる二次的なコミュニケーションをデザイン。作品から生まれるコミュニケーションによって地球環境の悪化や世界各地で続く紛争など、多くの難題について今一度考え、行動する「きっかけ」が生まれることを願う。板坂諭が主宰。



Hiroyuki Morita 森田裕之
Designer

Embodiment of Fractal
Juhi Tile
Woop

<http://studiorope.com/>



[Embodiment of Fractal] 材の規格から外れてしまう木材を合理的に使用するために木の成長フラクタルを構造へ応用したシェルブ。6種類の高さの支柱を自由に組み合わせることで、空間に合わせてフレキシブルにレイアウトすることができる。[Juhi Tile] 分厚く強いテクスチャーの樹皮の、油が多く保存が難しい反面エネルギー効率が良い特徴を生かし、燃料にしてセラミックの焼成に使用。本来朽ちていく特徴的なテクスチャーをタイルの表面に半永久的に保存する。

[Woop] まったく正反対に位置すると思われていた物事を組み合わせる。化学実験で起こるアクシデントだが、そのプロセスは生産過程に別の視点からアプローチする手段にもなる。「Woop」は、未乾燥の間伐材とウォータージェット加工を組み合わせることで、お互いの持つ弱点を最大限引き上げることを目的としたプロジェクト。加工機が生み出すラフな切削面と材の不均質な密度が無作為な美しさを生み出す。

プロフィール

「生きる為に不必要なモノにこそ、生活を豊かにするヒントが隠されている。」をモットーに2014年から「studio Rope」を立ち上げ活動。ロープの構造の様に細い一本一本の関係を美しく絡み合わせることで、モノだけではなく、強くフレキシブルな人間関係を築いていきたいと考えている。



Kan Sano
Keyboardist
/ Track maker

即興演奏による空間音楽
Space Music for a Place

<http://kansano.com/>



「それぞれの作品を聴き、喜び、会場の一部になり、空気になり、主張は静かに、ミニマルに、情熱を持って。過去に作ったどの楽曲よりも静寂が多くなった。静寂、間、沈黙、余白、無音、Silence、Space。空間を埋め尽くさず、空けたまま残す。余白に美を見出す。日本人が何百年も前から受け継いで来た感性なのかもしれない。録音に使ったのは増上寺のピアノ。会場で響く弦と弦の静かな共鳴音はまるで大きな宇宙だった。ピアノの録音の後、声や環境音、シンセやビートを加えた。それぞれを尊重した最小限の音数で。鍵盤を打鍵した後のわずかな余韻にまで耳を傾け感覚を研ぎ澄ませる。それは心の平安の時間。時間の感覚を忘れる異時間。」

プロフィール

パーカー音楽大学ピアノ専攻ジャズ作曲科卒業。キーボーディストとして数々のライブやレコーディングに参加するほか、新世代のビートメイカー/プロデューサーとして国内外のコンピレーションにも多数参加。SoundCloud上でコンスタントに発表しているリミックス作品やオリジナル楽曲がネット上で大きな話題を生み、累計35万再生を記録。トラックメイカーとしてビートミュージックシーンを牽引する存在である一方、ピアノ一本での即興演奏でもジャズとクラシックを融合したような独自のスタイルで全国のホールやクラブ、ライブハウスで活動中。2011年、デビューアルバム『Fantastic Farewell』をリリース、2013年、ジャズ・レーベルBLUE NOTE 創立75周年を記念したプロジェクト「松浦俊夫 presents HEX」のキーボーディストとしてBLUE NOTE (ユニバーサル・ミュージック) よりデビュー。ジャイルス・ピーターソン他世界中のDJから賞賛を浴びる。2014年、Benny Sings、Monday Michiru、mabanua、長谷川健一ら国内外のアーティストを迎えたアルバム『2.0.1.1』をリリースし、オリコンセールスチャートにランクインするなど破竹の勢いで音楽ファンの間に浸透中。



Kensaku Oshiro 大城健作
Designer

NUNO
IKO
BRIX
BELIZE

www.kensakuoshiro.com



[NUNO] 馬具などの革製品のように美しいディテールを持ち、時間が経つにつれ味わいが出るタフで高品質なレザーのツール。オットマンとしても使用することができ、座面の下には小物などを収納するスペースもある。「NUNO」とは、乗馬界の天才と言われたポルトガル出身のヌノ・オリベイラ氏の名に由来する。(ZANOTTA 社・2014) [IKO] 強度のあるステンレス製のロッドと重みのある石製のベースで構成された、素材の特性を生かしたタオルハンガーとトイレトペーパースタンド。フレキシブルに空間に設置することができる。トスカナ州の Serena 石を使用している。(BOFFI 社・2014) [BRIX] タブレットを使う機会が多い現代のライフスタイルにフィットしたデザインのアームチェア。片側のアームが幅広になることでテーブル的な機能が生まれ、トレイを置いたり腰掛けたり、多機能な使い方を提案する。(VICCARBE 社・2012) [BELIZE] ウォールナット製のフレームにイレギュラーにカットされた鏡を配した鏡。上下左右非対称のため置き方により違いが生まれ、鏡としてだけでなくインテリアのアクセサリーとしても空間を演出する。(LIGNE ROSET 社・2011)

プロフィール

1977年沖縄県生まれ。1999年 Scuola Politecnica di Design を卒業。ミラノで様々なデザインスタジオに勤めた後、2004年から2012年までの8年間、ピエロ・リッソーニ氏が率いる Lissoni Associati di Milano に勤務。家具、キッチン、オフィスファニチャー、照明器具からプロダクトまで様々なブランドのプロジェクトを担当。2012年の6月よりロンドンに移住、BarberOsgerby に勤務。2015年6月に独立、自身のスタジオをミラノに構える。

MINOTAUR

MINOTAUR ミノトール
Fashion Brand

MINOTAUR
IO COLLECTION

www.minotaur.co.jp



iPhone に対応したアプリケーションからヒーター装置を起動させると、30秒から60秒の間にアウター内が暖かさに包まれる。外気に合わせて3段階に温度コントロールができ、胸部に取り付けられたシグナルの色が温度の高い順に、RED → BLUE → GREEN へと変化する。

内蔵ヒーターから表生地までストレッチ性の高い防水素材を使用し、動きへのストレスをなくして快適な着心地を実現させている。

プロフィール

現代に、そして一歩先に求められる快適な日常着。伝統的且つ普遍的な技法や要素を継承しつつ、現代に求められる新機能や着心地の良さを追求したシンプルなデザインであらゆるシーンに溶け込むさりげなさを持ち合わせたアパレルライン。時に最新テクノロジーを駆使し、縫製やディテールなど細部に至るまでこだわった、遊び心のあるハイクオリティでありながら気負わずに身につける事が可能なスタイルを提案している。

nbt.STUDIO

nbt.STUDIO
Design Studio

Nebbia
Interactive Light

www.nbtstudio.com/



LCD テレビなどリサイクル家電から集められたパーツで製作した壁面照明。ダイヤモンドのような光の効果を生み出すために様々なタイプの光学フィルムや要素を分類し再構成している。台湾では年間100万台以上のテレビが捨てられている。それと同時に次々に燃やされ埋められ続けている高性能の光学フィルムを、サステナブルで洗練されたデザインに変換した。

プロフィール

Henry K.T. Hsiao (ヘンリー・シャオ) が台北で2011年に設立した様々なジャンルの専門家とのデザインスタジオ。サステナブルなプロダクトや解決方法を通じて未来を豊かにすることを目指している。プロダクトデザイン、空間デザイン、ブランディング、インタラクティブデザインといった分野の才能を、アジア、ヨーロッパ、北アメリカへ向けて紹介している。伝統工芸から3Dプリントのような先端技術までに精通し、伝統的な職人技を新たな生産方法に生かすことで、廃棄素材からラグジュアリーなプロダクトを創り出している。



STUDIO MAE ENGELGEER
Textile Designer

MOD COLLECTION
YEAH RUG

www.mae-engelgeer.nl



[MODE furniture fabric] 今年のミラノサローネで発表された新作。両面でデザインが異なるシリーズ。上質なウールと職人の技を生かしてスコットランドで織りあげられた。繰り返される模様構成で遊び心ある印象を生み出す。[MOD COLLECTION] ミニマルでモダン、グラフィカルなテキスタイルコレクション。プレイフルで繊細なグラデーションが特徴。パステルの色調やボルドーカラーからインスピレーションを受け、黒と青の上質な毛糸で織りあげられている。[YEAH RUG] モロッコのベルベル人の伝統的なボシャラウィットスタイルのカーペットからインスピレーションを受け、彼女らしいラグと壁掛けに。異なる高さやループが色同士が織りなすソフトなトーンのデザインを生んでいる。Marc Janssen によりネーパルの工房で100%ウールを使って職人の伝統的な手仕事で編まれている。

プロフィール

Mae Engelgeer (メイ・エンゲルギール) はオランダ・アムステルダム近郊のスタジオを拠点に活動するテキスタイルデザイナー。Amsterdam Fashion Institute でテキスタイルデザインと出会い学んだ後、Sandberg Institute, Amsterdam にて、さらにデザインやアートの領域を広げた。毛糸を愛する彼女は、忘れ去られた編み方を再び取り入れたり、複雑に色を混ぜながらパターンをデザインしながら、個性的な作品を生み出している。



TAKT PROJECT
Design Firm

Dye It Yourself -dyed plastic furniture collection-

www.taktproject.com



安価に量産可能なプラスチックの利点を生かしながら、そこに誰もが簡単に自分らしさを与えられる余白があること。「Dye It Yourself」はそんな概念を具現化する新しいプラスチック製品の「あり方」の提案。

吸水性を持つ特殊なプラスチックを「染色できるプラスチック」と解釈して製作した家具のプロトタイプで、ユーザーが思い思いに染色することができる。テキスタイルのように美しい色の揺らぎや濃淡があらわれることも魅力。均質であることを運命づけられた大量生産品でありながら、ユーザーの手で多様な表情を持つただひとつの存在となり得る。それは、量産品とユーザーとの関係性に新たな地平をもたらす可能性の提案でもあり、その関係性や概念の再構築こそ、TAKT PROJECT がデザインしたかったことである。

プロフィール

「DESIGN THINK+DO TANK」を掲げ、デザインを通して「別の可能性を創る」様々なプロジェクトを展開しているデザインファーム。nendo 出身のメンバーにより 2013 年設立。多様なバックグラウンドを持ったメンバーにより、ジャンルを超え、プロジェクトを最大化する独自のデザインアプローチを特徴とする。



Toyota InfoTechnology Center + Keio University Wakita Lab. Design Project

FINA

www.toyota-itc.com
<http://wakita.sfc.keio.ac.jp/>



「FINA(Fluid-HMI Inspired by Nature)」は、ドライバーの身体、特にステアリングと直結する上肢に情報をマッピングすることで、「クルマが感じているであろう」環境情報をドライバーに周辺視として伝えることを目指すインターフェイス。文字や数値の情報ではなく、外部の場(Field)の変化を反映し、身体感覚に直接訴えるように、風、雫、光、粒子、煙など自然界の現象にインスパイアされた要素で構成する有機的なリアルタイム映像が投影される。映像という感覚的な言語を介した、車体と人間、双方の有機的なシンクロニシティは、ボディ・イメージ(自己の身体の空間的な像)の一部でもある。このアプローチにより、車幅を感覚的かつ効果的に習熟させたり、速度や操舵を誘導するといった実用的なシナリオも見えてくる。

プロフィール

[トヨタIT開発センター] 専門分野も国籍も多様な人材で構成され、日米の拠点を中心に、進展が著しいIT業界の動向を深く理解し、クルマにとって有用な技術や情報を探索し、逸早く見極めると共に、「外に開かれた」集団として、外部との連携も含め、クルマへの実用化に向けた新技術の開発や提案にも積極的に取り組んでいる。
[慶應義塾大学脳田研究室] 物理シミュレーションやCG技術を用いて、目の前にありながらも知覚することができない自然界の情報を可視化する研究を進めている。



wena project
New Business Project
wena wrist

<https://first-flight.sony.com/pj/5/wena%20wrist>



腕時計のデザインや世界観はそのままに、バンド部分に、非接触 IC カード技術である FeliCa (フェリカ) 技術を活用したおサイフケータイ機能、スマートフォンと連動した電話やメールの着信や SNS の更新を光や振動で確認できる通知機能、歩数や消費カロリーなど活動量計としてのログ機能の 3 機能を、日常生活に役立つ機能として厳選して搭載している。アナログ腕時計の伝統的なスタイルを尊重しながらシンプルさを追求したデザイン。バンド部分をアンテナ化し、独自の手法で配線を維持した部品の分散配置を実現し(特許出願済み)、デザイン性と防水などの機能性を両立している。

プロフィール

"wear electronics naturally" というコンセプトのもと、自然に身につけられるウェアラブルシリーズを提案する。第一弾の製品である「wena wrist」はクラウドファンディングを行い、開始 2 日で国内史上最高支援額(プロダクト系において)を更新した。



Yuri Suzuki + OPC Hack & Make Project Designer + Project

DIY CAMERA KIT for OLYMPUS AI

http://opc.olympus-imaging.com/playair/yuri_suzuki/



「DIY CAMERA KIT for OLYMPUS AIR」は、ダンボールの展開図を組み立て、OLYMPUS AIR A01 とスマートフォンを装着するだけで様々な撮影スタイルを作り出すことができる。「OTOTO」とスマートフォンアプリを接続すると、OTOTO から伸ばしたクリップからシャッターやムービーの撮影、露出のコントロールができ、さらにクリップをダンボールに固定すれば、カメラをコントロールするためのボタンをどこにでも配置することができる。プログラミングや電子工作の知識がなくても、子供から大人まで、誰もが自分のカメラをデザインすることができる。今までにない楽しいコンセプトプロダクト。

プロフィール

スズキユウリ 1980 年東京生まれ。ロンドン在住。明和電機で 5 年間のアシスタントを経て、2006 年、文化庁新進芸術家海外留学制度により、ロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アートに入学し、「音楽とテクノロジー」をテーマに作品制作を行い、現在はサウンドアーティスト、プロダクトデザイナーとして活躍している。